黒毛和種個別一貫経営の現状とその特徴

（畜試　経営部、肉牛部）

1．背景とねらい

個別一貫経営は、繁殖・肥育両部門を１つの経営体で一貫して行うことで子牛価格変動の影響が緩和される等安定化が図りやすい利点があるが、労力や技術対応、施設投資等経営基盤の整備が必要とされている。

今回、経営事例調査及び意向調査から経営概況と技術及び経営管理の特徴などが明らかとなったので参考に供する。

2．技術の内容

1）一貫経営の概要

① 県内の黒毛和種一貫経営100戸程のうち、48戸について調査。５割が肥育主体、３割が自己完結、２割が繁殖主体であり、繁殖牛は16頭で県平均（H7）3.4頭の4.6倍、肥育牛は22頭の1.2倍と飼養規模が大きい。

② 開始の動機は子牛価格の変動がほとんどで、繁殖から移行の場合は段階的な増頭、肥育から移行の場合は急テンポの増頭が多い。技術面では繁殖牛の能力確認（淘汰）や労力分担等に留意しており、規模拡大の意向が強い。

③ 開始時期からみて県中央部を境にして県南部までの地域が古くからの伝統的産地とすれば県北部までの地域は草地依存度が高い新興産地と言える。今回の調査対象戸数でみると前者は29戸（60％）、後者は19戸（40％）であり、肥育主体型が前者に多く、繁殖主体型が後者に多い。

2）生産技術及び経営管理の特徴

① 精査した４事例では、肥育期間はあまり変わらないが、自家産子牛は肥育開始月齢が若く（１～２ヶ月程度）素畜費が安いことなどから高い所得をあげている。

② ４事例共通の技術及び経営管理の特徴として、ｱ.２人以上の労力で作業（繁殖部門と肥育部門）の分担・協力　ｲ.飼料基盤（草地、水田転作）が多い　ｳ.飼養経験が長い（牛飼養21年・一貫15年）　ｴ.繁殖牛飼養管理技術が高い（分娩間隔約12.5ヶ月）　ｵ.母牛の産次数が平均で８産と多い（償却費が安い）　ｶ.肥育技術の習得に２～３年かけ、試験的な肥育（１頭）からスタート　ｷ.畜舎等は段階的（10年間で３～５回）に整備（自力建設が多い）　ｸ.経営記帳の実践　ｹ.資金力がある　ｺ.肉用牛主産地内で地域との結びつき（稲ワラ交換、共同草地や機械の共同利用ほか）が強い等があげられる。

問題点としては、ｱ.１つの経営で両方を行うのは、飼料基盤、畜舎、労力及び技術対応の面で負担が大きい　ｲ.子牛生産から肥育牛販売まで長期間を要するので資金の回転が遅い　ｳ.生産技術が繁殖と肥育で大きく異なり良い肥育成績が出ないことがある、などである。

3）一貫経営に対する意向（繁殖牛多頭飼養農家）

① 既に（一部）肥育を行っている農家は、一貫経営を儲かる又はやり方次第で儲かると評価しているのに対し、他の７戸のうち３戸が分からないとしている。

② 取り組んでいる農家（意向のある農家も含めて）は、その理由として子牛販売よりも儲かる、自家産牛の成績を知るため（繁殖牛の能力を把握し、淘汰、改良を進める）としている。

③ 取り組まない理由としては、肥育技術、投資、労力等の負担をあげている。

なお、一貫経営導入に当たってはいずれの農家とも「開始時の資金手当」「肥育技術の確立」「施設投資」の３点がクリアすべき条件としている。

4）一貫経営移行に伴う投資と経営収支の見通し（試算）

① 繁殖牛15頭から自家産子牛主体（肥育牛の66％）で肥育牛30頭の一貫経営へ移行するケースについて試算すると、

ｱ. 肥育部門の投資は肥育牛舎、堆肥舎等必要最少限の投資（補助事業導入及び制度資金活用）という前提でみた場合でも、開始以降２年間の資金繰りが重要な課題である（本試算では、２ヶ年で766万円の運転資金借入れをみている。）。

ｲ. また、草地基盤や機械・施設が整備され、繁殖及び肥育管理技術が高いレベルとしても、前記ｱ. の運転資金借入れの場合で、経営が軌道に乗るまで６～７年を要し、その後は安定する。

ｳ. なお、繁殖経営（平成７年）では所得145万円に対し、一貫経営安定時（平成15年）には2.7倍の396万円に増加すると見込まれる。

② 今回の経営試算からキッシュフロー（経営内の現金余剰）を用いて投資限界額を算出してみると、肥育牛出荷１頭当たり約200万円、販売価格が５％減で約140万、10％減で約81万円になる。

なお、14％を超える価格減の条件下では、本試算のような投資は成立しない。

3．指導上の留意事項

① 繁殖から一貫経営へ移行の場合、分娩間隔や事故率等繁殖成績の良好な農家が対象となると考えられるが、労力や経営基盤及び資金力等を事前に十分チェックする必要がある。

また、経営が安定するまで長期間（10年程度）を要すると考えられるので、その間の技術レベルの向上や資金確保等も留意する必要がある。

② 一貫経営移行（肥育からの移行も含めて）の手順、技術及び経営管理面の必須要件、素畜価格及び肥育牛販売価格の変動や技術係数の変化に対応した収支見通しと投資限界の解明等が残された課題である。

4．試験成績の概要（省略）